

平成29年度第1回湯梨浜町地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時 平成29年8月23日(水) 13:30~14:45

場 所 湯梨浜町役場 第3会議室

出席者 徳田会長、塩副会長、長委員、宮本委員、福井委員、
川田委員、濱口委員、中本委員

事務局 山田課長、洞ヶ瀬所長、宮本補佐、森主幹、植田副主幹、
佐々木、米原、戸崎

1 開 会

2 あいさつ

会 長 会の始めに事務局の体制紹介をお願いします。

課 長 4月1日より長寿福祉課課長となりました山田です。これまでは地域包括支援センター所長と長寿福祉課長と兼任であったが、今年度より洞ヶ瀬保健師が参事兼センター長となった。その他は大田保健師が異動し、植田保健師が後任として配属となった。また、田中主任介護支援専門員が新たに採用となっている。

会 長 それでは協議の方に移ります。

3 協議事項

(1) 平成28年度事業報告・平成29年度事業経過について

(資料に基づき事務局から説明)

委 員 在宅医療・介護連携推進事業について、在宅医療・介護連携センターの設置がなくなったのはどうか。

事務局 1市4町でセンターの設置に取り組む話も当初はあったが、平成30年に向けてはセンターの役割はそれぞれの市町村で担い、マップ作りや講演会等、必要に応じて共同で行なうことや、センター設置の必要性を検討していくこととなった。

委 員 町内の内科医も減っている現状があり、センターの設置は介護保険事業の目玉であったのではないか。細川内科も閉院し、他の医院もいつまでやってくれるのか心配もある。そうした町内の医療実態も踏まえて、介護と医療の仕組みや体制作りは行政としてやっていくべきではないか。

事務局 もともと本事業は病院の入退院時の連携のルール作りを充実させることを目的としている。医師会、行政と連携してその体制作りを行っていかねばならない。

委 員 温泉病院等にはその機能があるように聞いているが。

事務局 入院が可能な病院の多くは地域連携室が設置されており、市町村や包括ともすでに連携が図れている。センターに代わる対応を各市町村で行っていく。医療側と協議をし、必要に応じて検討していく。

- 事務局 当初はセンターを医師会に委託という話もあったが、人員体制が整わないため、難しいということになった。次にふるさと広域連合の案も挙がっていたが、そうすると市町村の事務から外れてしまうため、首長・副市町長会議でスタート時点ではセンターが担う役割を市町村が責任をもって対応していくことが決定した。
- 委員 医師会は事業に対して消極的なように見られる。行政からセンター設置の必要性を訴えていくべき。
- 事務局 医師会の中でも医師により温度差があるようには感じている。単町ではなく、中部1市4町が足並みそろえてやっていくべきことで、県も巻き込みながらやっていきたい。
- 委員 移動支援について、のりあいバスは東郷地区3回、羽合、泊地区はそれぞれ2回の運行となっている。羽合は店も多くて特に困らないかもしれないが、泊の回数をもう少し増やすことができないか。
- 事務局 社会福祉協議会の事業であるため、そういった声が出ていることは要望として伝えていく。また町の方でものりあいバス以外の移送サービスも検討しているところである。
- 委員 総合相談支援事業では24時間の電話対応となっているが、実際に夜間にどのくらい電話がくるのか。
- 事務局 夜間に電話がくることはほとんどなく、平日の時間内の対応ですんでいる。時間外の連絡で緊急対応が必要なこともあるが、まれである。
- 委員 家族のつどいの参加延べ人数が減少しているが、それについてはどうか。
- 事務局 つどい立ち上げの時期と比べると確かに参加者は減りつつある。看取りの時期がきたりして会から離れる方やときどき参加される方がおられる状況である。
- 委員 会のあり方を考えていくことも必要ではないか。自分も要介護の家族がいるが、ケアマネジャーが熱心に対応してくれており、相談にものってくれている。私はこの会に行って何か尋ねたり、話を聞いたりしたいとは思わない。ケアマネジャーの個々の対応で解決する人も多いのではないか。施設や事業所でも家族会や祭りなどのイベントが行われていたりする。施設との連携や地域包括支援センターの絡み具合を見直した方がよいのではないか。
- 会長 家族のつどいは平成20年からスタートした。自分自身、妻の介護を一人で抱え込んでしまってどうしようもない時期があった。そのような思いを抱えているひとが自分の他にもいるかもしれない、それなら集まってその思いを話してみようかということで始まった。確かに現在は5～6人程度の参加で全体数のほんの微々たるものかもしれない。でもそこに来られた方の思いがある限り続けていくべきだと考える。
- 事務局 本日ちょうど午前中に家族のつどいが開催されたばかり。毎月参加の方もあればときどき参加される方もいる。ストレスを抱えて来られる方がいろいろと話

されることで気持ちが楽になって帰られる。今日来られた方も「来てよかった」とやわらかい表情になって帰っていかれた。そういったような方が1人でも2人でもおられる限り、やっていきたいと考える。

委員 会を否定しているわけではない。施設の方でも家族をまきこんだ行事もたくさんやっている。参加者が減少しているところを、包括と施設との垣根を越えて工夫してやってほしい。

委員 新聞等で琴浦町の旧中井旅館でやっている取組みをみたことがあるが、なにか情報はあるか。

事務局 琴浦町はオレンジカフェを旧中井旅館で行っている。認知症のあるご本人、ご家族だけでなく誰でも集まることができる居場所として活動している。

委員 湯梨浜も中央公民館という堅苦しい場所ではなく、集まりやすい場所での開催を検討してもいいのではないか。

委員 家族のつどいは私もお世話になっていた。以前はもっとざっくばらんに話ができていたが今はそうではないように感じる。行きたい人はいるとは思いますが、放送などの案内を聞いても会の中身がよくわからないという声も聞く。

会長 やわらかい雰囲気ではやりたいとは常日頃から思っている。良い知恵があればまた教えてください。

委員 認知症地域支援推進員やチーム会議について具体的に聞きたい。

事務局 協議事項(2)で併せて説明させていただきたい。

(2) 認知症初期集中支援チーム検討会について

事務局 認知症初期集中支援チーム検討委員会設置要綱第3条、第5条に基づき、検討委員会の会長、副会長を地域包括支援センター運営協議会同様、徳田会長、塩副委員長にお願いしたいがよいか。

委員 (拍手)

会長 ではよろしく申し上げます。

事務局 (資料に基づき事務局から説明)

認知症地域推進委員の活動内容としては支援チームの一員として動いていくこと、その他に相談時の対応、家族のつどいのサポート、認知症サポーター養成講座の開催、健診時のタッチパネルの体験等、啓発活動を行っている。

地域包括支援センター職員の米原が推進員として活動している。

委員 相談時には民生委員等の関係者とプライバシーも配慮しながら行っているのか。

事務局 家族は地域の住民の方から様々な相談が寄せられている。それぞれ、個人情報等にも留意した対応をとっている。

(3) その他

交代した委員の紹介

所 長 この度、参事兼センター長となりました。これまで通り保健師として現場対応もしていく。今後もご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

4 閉会

副会長 認知症初期手中支援チームについて話がありましたが、内容が内容だけになかなか表に出てこない。認知症なのか物忘れなのかわからず、困っている方も多いと思う。そういった潜在的な部分を掘り起こして、進行しないように対応をとっていただきたい。本日は暑い中、ありがとうございました。